



年の初めに

会長 長瀬 清

会員ならびにご家族の皆様には健やかで新しい年をお迎えになられたこととお慶びを申し上げます。

昨年春の代議員会の直前、3月11日に東北地方一帯に未曾有の大災害が発生しました。書物でしか知り得なかった大災害を、文明の利器であるテレビが状況の一部始終を克明に活写し、日本中否、世界中の人々を震撼させました。加えて原発事故が発生し、被害を一層大きくし復興を長引かせることになりました。そのような中で代議員会で三度会長に選任されました。責任の重さをより一層感じ身の引き締まる思いでした。災害により日本経済の被った打撃は計りしれません。勤勉実直な日本国民の力を信ずるのみです。お世辞にも適正、適切な対策がとられたとはいえ、ずるずる復興を長引かせる政治に、国民の期待、信頼は地に落ちてしまいました。

医師会も震災対応に追われて、本来の業務が不十分になったことは否めません。お詫びを申し上げます。早急に遅れを取り戻すべく役員、職員ともども努力をしております。道内の多くの医療機関の皆様が災害支援に協力して下さり、被災地の方々から感謝され、多大な評価を受けました。ご協力に心から感謝申し上げます。まだ心の傷が癒えず今後もケアを要する人が大勢おります。引き続きのご支援よろしくお願いいたします。

北海道では福島原発事故の余波を受けての泊原発の問題や、海外からの観光客の激減により道内経済は未だに低迷を続けております。新年を迎えて一日も早い回復が待たれます。

道内の医師不足、偏在は相変わらずです。人口10万対医師数はわずかながら増加傾向にありますが、官民挙げての必死の対策はまだ当分続きます。地域枠を使った入学者の卒業も間近です。また結婚、出産を機に医療現場から離れた女性医師の復帰が、医師不足解決の鍵を握っています。なんとしても資格を有する女性医師の職場復帰を図らなければなりません。ここでネックになるのは離職した医師の行方を捜すのに個人情報保護の壁です。潜在看護師掘り起こしも同様です。これがなくならなければ解決困難と感じています。

昨年も多く道の各地をまわり、会議の後地元の先生方と親しく意見交換する機会を持ちました。地域の医療状況を肌で感じ、医師会として何とかしなければとの思いを強くしています。

—昨年10月、菅首相が国会で突如TPP参加を表明

し世間を驚かせました。医師会はあげて参加に反対を唱え意見表明を行っています。菅内閣の後を継いだ野田首相は反対を押しきって参加を表明し積極的に推し進めています。TPP参加については賛成と反対と意見は二分しています。しかし、前の選挙で民主党を大勝させた、失敗してもいいからとにかく一度やってみようという理論は通用しません。間違ったらお終いです。「社会保障制度と税の一体改革」での受診時定額負担制度導入と併せて、日本の医療制度を崩壊に導くもので強く反対をしています。国民をいかに味方につけることができるか医師会の活動が試されています。

公益法人制度改革の期限が迫り、北海道医師会では精力的に検討を行った結果一般社団法人を選択することで代議員会の承認を得ました。平成25年度実施に向けて準備を進めていきます。

北海道では救急医療がなんと言っても大きな問題です。医師不足の中、地域では病院と開業医が協力してやっているところ、急病センターを自治体が開設しているところとさまざまで、結局は医師不足の壁にぶつかり苦勞をしています。広域をカバーするために緊急患者については、道央、道北、道東3地域にドクターヘリを配備し相当の効果を上げています。一昨年某企業の援助を受けドクタージェットを研究運航し、一応の効果を上げ、昨年の地域医療再生基金の中で、再度研究運航を行うことになりました。ジェットはヘリと異なり早さ、夜間、悪天候に威力を発揮するもので大いに期待されています。

本年は介護保険制度の改正実施、診療報酬と介護報酬の同時改定の年です。前回は大病院中心の改正でした。今年は診療所や中小病院を見捨てることのないように願っています。

4月1日、日医会長選挙が行われます。前回は政治との関連がからんだ三つ巴の争いとなり選挙の在り方が問われました。新執行部は直ちに「会長選挙の在り方」検討委員会を立ち上げました。前回選挙の反省の上に立って今年の選挙から選挙管理委員会をおき、そのもとに厳正な選挙を行うこととなりました。まだ候補者が揃う状況にはありませんが、良識ある選挙で医師会に最も相応しいリーダーを選出したいものです。

本年も会員諸兄の力強い後押しを心からお願いいたします。

CONTENTS

北海道医報
平成24年1月1日 第1120号

年頭の辞／年の初めに	長瀬 清	2
年頭所感	原中 勝征	4
年頭所感	高橋はるみ	5
年頭にあって	白川 賢一	6
医の倫理綱領		8
熊熊通信 特集／北の大地に医療の場を求めた会員たち		
永井りつ子、南 俊郎、伊藤 正敏、福場 将太		10
報告／日本の医療を守るための総決起大会	直江寿一郎	14
保険医療医師研修会	橋本 洋一	16
第91回 北海道医学大会総会	渡邊 直樹	18
女性医師等支援相談窓口コーディネーターを委嘱されて	安藤 敬子	38
税務相談室／定期金給付契約の相続税評価	中村 孝一	40
特集／新春随想		41
北海道医歌人会詠草		63
第38回 全道医家囲碁大会		64
認定産業医制度 研修会一覧		67
認定健康スポーツ医制度 再研修会一覧		67
医学会・医学講演会等 開催情報		68
中央68 道南72 後志72 日胆73 空知73 道北74 北見75 道東75		
会議室／第16・17回 常任理事会		76
売貸医院・医師招聘情報		80
道医の動き		83
新規指定医療機関		84
訃報		85
道医師国保の頁		86
大通公園を望む窓辺から		94
季節風／生き方のターニングポイント	橋本 洋一	96

お知らせ

電子メールアドレス発行申し込みのご案内⑨

マスマチュアル生命保険「団体扱い」のご案内⑮

第46回 北海道ドクターズゴルフ大会開催予告⑰／電子メールによる会員への情報提供⑰

研修会等への託児サービス併設費用の助成⑳／道医サポートセンターのご利用について㉔

グループ保険のご案内㉕

北海道医師会会員数 8,388名 (+3) うち日本医師会会員数 6,035名 (+5)

A 2,545名 (-2) B2 4,565名 (+8) C2 167名 (-2)

B1 584名 (+1) C1 114名 (+1) C3 413名 (-3)

平成23年11月30日現在 () 内前月比

作品紹介

こぬま げんゆう
小沼 源雄 冬の山容

1908 (明治41) 年～1981 (昭和56) 年

剣淵町生まれ。

1979 (昭和54) 年の作品。油彩、キャンバス (97.0×145.5)。

1928 (昭和3) 年より教諭として勤めるかたわら、絵の研鑽を深め、1931年に道展に初入選し頭角を現す。1940年に旭川市立高等女学校教諭となり、以来旭川を地盤として作家活動を行う。

1945年、故・高橋北修らと共に純生美術会の創立に献身的に活躍し、その後34年間にわたり、その発展に努力を重ねた。また、旭川

北海道美の遺産

写真・資料提供：北海道立旭川美術館
(旭川市常磐公園内 0166-25-2577)

を中心とした美術界の指導者の役割を果たした。1950年には創元会展に「冬の山々」を出品し入選、1953年に会員となった。

旭川を中心とした冬の厳しさを題材にした作品が多く、鮮明さの中に温かい情感をただよわせた、旭川の風土への愛情あふれた作風が特徴。本作でも、大胆な筆致で、真冬の大雪山の厳しい様子を描いている。

1978年に旭川市文化奨励賞を受賞。

著作権者の方を探しております。情報をお持ちの方は、事務局までご一報ください。